



目次	01 歴らぼの活動	02 卒業論文：2017年度	03 歴史文化学科の活動
	04 ゼミの活動	05 そのほか	

01 歴らぼの活動

「加古川「知」を結ぶプロジェクト」成果報告会@歴らぼ中世班

2018年1月13日、歴らぼ中世班は「加古川「知」を結ぶプロジェクト」成果報告会に参加しました。この企画は甲南大生が加古川市の地域課題を調べ、その解決のための提案をするというものです。私達は市内の鶴林寺を素材に発表しました。鶴林寺は播磨地方有数の古寺で、聖徳太子が建立したと伝えられます。本堂は国宝に指定され、そのほか多くの文化財を所有しています。人気の観光地になる要素はあるものの、現状は市外の人々に知られておらず、また、鶴林寺に行ったことのない加古川市民も少数ながらいます。私達はこの課題を解決するために、鶴林寺に人を呼び込む提案をしました。発表はとても緊張しました。市役所や一般の方々など多くの方が発表を聴いていると考えるだけで、緊張で手が震えました。この企画で得た経験や反省を次に活かしていきたいです。(2回生・金澤舞奈)



「篠山プロジェクト」(歴らぼ地図班) 第二弾企画完成!



「歴らぼ地図班」を中心とする「篠山プロジェクト」メンバー(代表：4回・椿野佑太)は、2015年度企画(歴らぼ通信6号に記事を掲載)を進展させるために、地域連携センターの支援を受けて第2弾の活動を実施しました。活動内容は、篠山市民に青山家文書の存在をより知ってもらうために、篠山城や城下町の絵図を紹介するというものです。ただし、これまでに十分な調査が実施されていないことから、私達は、青山歴史村や亀岡市文化資料館などで調査を実施しました。その成果は冊子(4頁)とパネル(3枚)にまとめました。それらは丹波篠山デカンショ館と篠山城大書院に設置し、市民や観光客の目にふれることになりました。作業は大変でしたが、私達の活動がこうして形になって嬉しく思います。(3回・上谷ひな、水田佳奈)

歴らぼ通信の刊行は、これで10号となりました。歴らぼ通信では、歴史文化学科における様々な活動を紹介しています。通信に記載される記事の多くは、ホームページ「歴らぼのWEBサイト」(<http://www.konan-u.ac.jp/hp/rekibun>)でも紹介していますので、そちらもご覧下さい。各記事を書いた学生の年数は記事の時期に合わせています。

井上翔太（高田ゼミ）：手紙を書く貧者－産業革命期における貧民の生存戦略－

私の卒業論文は、イギリス産業革命期の「貧者の手紙」についてです。扱った手紙は、公的救済に当て貧者が申請を行う為の手紙であり、被救済権の行使として主体的に救済を求める貧者の声を聞くことができる。「貧者の手紙」の中でも、13年間で31通申請の手紙を出した Soundy 家族や、10年間で52通申請の手紙を出した William 家族に注目し、家族の貧困問題を考察した。子供に対する救済が救済理由として頻出し、これが戦略として有効であったことがよくわかる。貧者の手紙は、内容が抽象的から枚数を経るごとに具体的になっていき、同情を引くようなレトリックが見られる。また、1834年の救貧法改正以降の手紙は、数も少なくなっていき、ほとんどが救済を拒否される形に終わっていることから、公的救済に向けた「貧者の手紙」は18世紀から1834年までの期間限定的な生存戦略の断片であると考えられる。今後は様々な面から、貧者はなぜ手紙を書いたのかを考察していきたい。

右図 這いずり人

(出典：『写真と文によるヴィクトリア朝ロンドンの街頭生活』(2015、185頁))

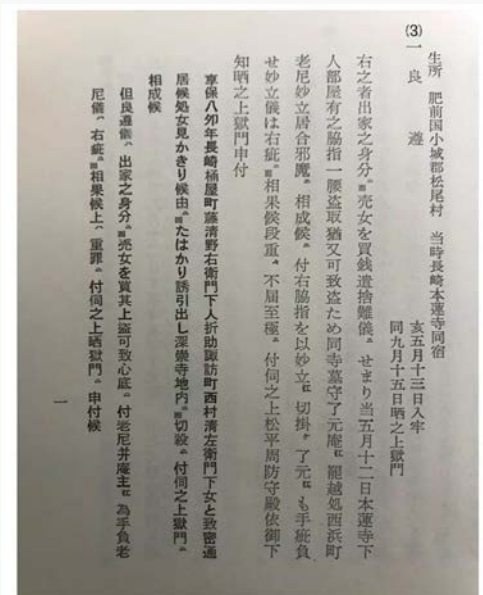


横田和太（東谷ゼミ）：江戸時代における殺人事件の実態 —長崎奉行所判決記録『犯科帳』からの一考察

『犯科帳』とは、長崎奉行所が寛文6年(1666)から慶応3年(1867)にかけて発生した事件の判決内容を書き記した史料である。私はこの史料を活用して当時の殺人事件の実態を少しでも明らかにしようと考え、『犯科帳』全11巻の中から208件の殺人事件の判例を抜き出した。そして江戸時代を通しての発生率、事件内容、判決内容、創作と史実との違いという4つの大きなテーマについて法制史に関する文献なども活用して分析した。

その結果、以下のことが判明した。発生率は日本全体、あるいは長崎の地に関係する世情が殺人事件の増減と対応する。事件内容については、口論や酒に酔う、男女間のもつれなど様々な犯行理由があり、犯行に使用された凶器も多岐にわたることが明らかとなった。続いて判決内容では、当時と現代とでは殺人事件への判決の基準は異なるものの、裁きを下す側が事件を精査した上で理非曲直を糺そうとしていたことが窺い知れた。また『大岡越前』や『遠山の金さん』等の時代劇で見られるような場面は、やはり史実ではほとんど見られないことがわかった。

このように、私は多少ながらも江戸時代の殺人事件の実態を明らかにすることができたと感じている。



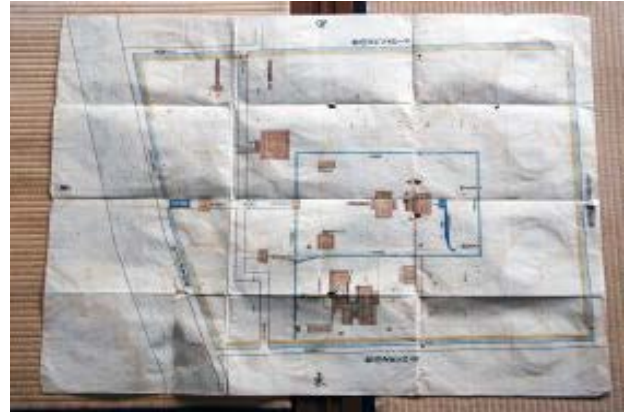
上図：明和4年（1767）に強盗殺人を犯した僧の判例 出典：『犯科帳』3巻（犯科帳刊行会、1958）、1頁。

浅田早央璃（佐藤泰ゼミ）：平安貴族の夢－小右記を例に－

私は「平安貴族の夢-小右記を例に-」というテーマで、平安貴族が見ていた「夢」に焦点をあて、平安時代の人々は目に見えないモノに対して実際にはどう捉えていたのかについて卒業論文を書きました。卒業論文を書く前に私がしたことは、参考史料の小右記を読みこむことです。小右記は全て漢文で書かれていたのでこの言葉はどういう意味なのか、といったことを一つ一つ調べていくのがとても大変でした。時には本当にこの意味でいいのか悩み、どうしても分からない時は先生に聞きにも行きました。ただ史料の読み込みや分類ごとに分けるといったことをしっかりしていたおかげでその後の論文を書く工程はかなりスムーズに進めることができたので、今では時間をかけてよかったと思っています。それでは皆さん、卒業論文頑張ってください!!



私は、篠山藩青山家文書の古地図や「大坂諸繪圖」を主な素材に、指図の定義やその有用性を検討しました。これまで指図は主に建築学の枠組の中で個別に研究されてきました。しかし、歴史学や人文地理学の分野での議論は乏しく、地図として体系的にまとめられていません。そこで卒論では、各時代を通して指図がどのように定義されてきたかを明らかにし、また、指図の活用例として、武家社会における儀礼空間の理解の一助として検討しました。卒論では、指図の役割を人・物の移動の視覚化と結論付けましたが、それは役割の一部にすぎません。このテーマに取り組んだ理由のひとつは、扱った「篠山藩青山家文書」「大坂諸繪圖」への関心が少しでも高まればと願っていたことでした。指図を含む資料の研究発展の一助となればと思います。



03 歴史文化学科の活動

2018年度 歴文新歓遠足@みんなぱく



2018年4月14日（土）、吹田市の大阪万博公園内にある国立民族学博物館で、歴史文化学科1回生を対象とした新歓遠足を行いました。天気が心配でしたが、新歓遠足が終わるまでは雨が降らず、予定通り遠足を行うことができました。展示を見学した後、外で昼食をとり、各自が気に入った展示物の紹介を行い、最後に班対抗みんなぱくクイズで盛り上がりました。最初は緊張しているように見えたのですが、時間が経つにつれて1回生同士親交を深めていけたようでよかったです。（2回生・福田綾香）

授業紹介：西洋史概説（担当：高田実先生）

この西洋史概説という授業は、ローマやルネサンス、農民の生活、大航海時代など、古代から近世までを幅広くヨーロッパの歴史とその見方について学びます。授業では、単に出来事として覚えるだけではなく、自らが問題を発見しながら、それをどう考えるかというように、歴史を学ぶ意義に重点を置いています。また、毎回の授業内容に関係する世界遺産のビデオを見ることで、視覚からの理解も促してくれます。私にとって、今までの価値観や認識を覆される授業です。（1回生・岡本葉奈）



04 ゼミの活動

鳴海ゼミ旅行@トヨタ産業技術記念館と明治村



鳴海ゼミは2018年1月30・31日の2日間、愛知県名古屋市で巡検旅行を行いました。1日目はトヨタ産業技術記念館に行き、近代日本の繊維機械と現代日本の自動車の技術の変遷について学びました。織機や金属加工の実演を見ることができ、近代日本の技術がどのように発展したかを知ることができました。2日目は明治村に行き、数々の重要文化財を見学しました。実際に蒸気機関車や村営バスに乗ることができ、貴重な体験をしました。2日間という短い間ではありましたが、この2日間で名古屋の産業や歴史を学ぶことができ、非常に有意義なゼミ旅行となりました。（2回生・森安秀夏）

東谷ゼミ旅行@高知

東谷ゼミは、一泊二日（2018年1月13日～14日）で、高知に行きました。初日は高知城博物館に行き、山内家伝来の史料に触れ幕末期の風を感じることが出来ました。また、晩御飯はひろめ市場で高知の魚介類に舌鼓を打ちました。二日目は高知城を見学。天守閣にも登り、高知市内を一望しました。また、龍馬の生まれたまち記念館も訪れ、坂本龍馬の生立ちを学びました。市内には数多くの幕末期に生きた偉人たちの石碑が建っており、身近なところで歴史を感じました。様々な所で幕末の歴史を肌で感じました。高知は楽しく、ええとこやった！（3回生・藤井拓己）



中町ゼミ合宿@和歌山県串本町



中町ゼミは2018年3月1・2日の2日間、和歌山県串本町でゼミ合宿を行いました。初日は8時半に新大阪駅集合して9時過ぎの電車に乗る予定でしたが、強風の影響で運行中止になり、結局13時半ごろの電車に乗りました。しかし周参見駅で強風のため停止してまた運行中止となったのでそこから串本駅までバスで行くことになりました。初日に行く予定だったトルコ記念館には行くことができず、その日はそのまま宿に向かい夕食、宴会を行いました。ゼミ合宿のような機会は今回が初めてであり、2回生みんなで話すこともあまりなかったので、いい機会になりました。またこのゼミ合宿では、1回生もいっしょにいきました。みんなの親睦が深まった合宿になりました。2日目は、初日に行く予定だったトルコ記念館に行きました。事前に勉強した人もしてない人もガイドの話を聞いたり、資料を見たりして新しい知識を得たことだと思います。この2日間、ゼミの仲間といっしょに勉強でき非常に有意義な時間を過ごせました。（2回生・金屋修平）

05 そのほか

留学体験記：The story of my study abroad in CANADA@UBC



2017年9月から半年間カナダ、バンクーバーへ語学留学。留学先はブリティッシュコロンビア大学（通称UBC）。学校生活ではたくさんの友達・先生たちとワイワイ楽しく授業していました。休み期間中にはアメリカシアトルへも行きました。またステイ先では、ホームパーティーに参加させてもらいました。家族の皆さんが本当に優しくて、僕の好きなシンガー、スティヴィー・ワンダーの話で大盛り上がりでした。毎日のご飯もすごく美味しくて、至れり尽くせりでした。本当に半年でも物足りないとても良い街でした。卒業までにもう1回行きたい！（3回・福田圭佑）

歴史文化学科 共同図書室

2018年3月から共同図書室でお仕事をしています。歴史文化学科の図書室は多くの学生が利用していますね。先生方も来られるので、講義以外のお話も聞くことができ、とてもアットホームな感じがします。まだ間がなく分からないことばかりですが、皆さんに助けてもらっています。少しずつ慣れるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。もし図書室にまだ来ていない人は是非一度たずねて下さい。お待ちしております。（永濱一世）



編集：武田卓司（代表・3回生）、福田圭佑（3回生）、森安秀夏（3回生）、山本彩菜（3回生）、鳴海邦匡
発行：甲南大学文学部歴史文化学科
発行日：2018年8月1日 連絡先：〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1 TEL078-435-2874（学科事務）